

造影剤を使用する検査の説明書

(CT検査・MRI検査・造影検査・血管造影検査)



病気の状態をより詳しく調べるために、造影剤という薬剤を注射して検査を行います。造影剤は、大部分の方には体に悪影響を与えない安全な薬剤ですが、体質によっては副作用が起こることもあります。造影検査の必要性については、担当医から説明を受けて下さい。

○ 造影剤注入後すぐに起こる副作用について

軽い副作用	血管の痛み、吐き気、くしゃみ、せき、のどのイガイガ、かゆみ、発疹など。 このような副作用の起こる割合は、20～50人に1人程度です。 基本的には治療を要しません。
重篤な副作用	呼吸困難、血圧低下、意識障害など。このような副作用は、通常治療が必要で、入院が必要になったり、時には後遺症が残ったりする場合があります。 このような副作用の起こる割合は、CT・尿路造影・血管造影で2500人に1人程度、胆道系造影剤では、300人に1人程度です。 極めて稀ですが、10～20万人に1人（0.0005%～0.001%）死亡例報告もあります。 MRI用の造影剤における重篤な副作用発生頻度は、更に少ないと考えられています。

○ 原則として造影検査を行わない方（副作用の起こる確率が高いため）

- 過去に、造影剤で副作用反応（過敏症）の出た方。
- 現在、気管支喘息（小児喘息を含む）のある方。
- 腎臓の動きの悪い方（腎不全など）は、症状が悪化する恐れがあります。
- 全身状態の極度に悪い方。
- 重篤な甲状腺機能亢進症の方。

上記に当てはまる方であっても、担当医の判断にて造影検査を行う場合があります。その場合、担当医師から造影検査の必要性について説明を受けてください。

- 脱水状態で造影剤を投与すると、副作用の発生する可能性が高くなります。絶食の指示のある方でも、水分制限の必要はありません（水・お茶のみ可）。
- アレルギー体質の方は、副作用の発生する可能性が高くなります。
- 下記の糖尿病薬は、造影剤（MRI用造影剤は除く）との併用に注意が必要な場合があります。服用されている方は、お申し出ください。
 - ・メトグルコ ・グリコラン ・メデット ・ジベスト ・ネルビス ・メトリオン
 - ・メタクト配合錠 ・ジベトンS錠 ・ジベトス錠 ・メトホルミン塩酸塩（トーフ）
- 稀に、検査終了後、数時間から2日以内に上記副作用の起こることがあります。これらの症状の多くは軽微で自然に消失します。症状が気になる場合は、受診科あるいは放射線科（時間外は時間外受付）までご連絡ください。
- MRI用造影剤の小児に対する安全性は確立されていませんが、診断に必要と判断した場合、造影検査を行うことがあります。
- 検査終了後、造影剤の体外排泄を促すために、水分を十分に摂取してください。
- 現在の医療では、副作用の発生を完全に予知する方法はありません。

副作用の起こりやすい体質の方を事前に調べるために、別紙の『造影剤を使用する検査のための問診表・検査同意書』への記入をお願いいたします。